

等々力横穴墓群(世田谷区)

ここは等々力不動尊



平安時代中期(十世紀)の創建という



山門



等々力溪谷は谷沢川によってできた谷で、
 今でも多くの植物物がみられ、四季折々
 には咲き乱れる桜、常緑の木立、秋の紅
 葉も不動滝（遊歩道）に映え、深山の趣き
 がある。谷間は粘土、砂礫、赤土（関東
 ローム層）の層が重なって地層の移りか
 わりをものがたっている。
 不動滝は古くより知られ、清浄な溪谷に
 しぶきをたてて、とどろいていたことか
 ら、等々力の地名が起ったともいわれ
 ている。不動堂本尊は、新義真言宗の宗
 祖親教大師が山城国（京都府）よりこの地
 に移したとつたえられる。
 世田谷区教育委員会

せたがや百景
 95 等々力溪谷と等々力不動
 昭和58年10月認定
 世田谷区

等々力不動堂本尊
 等々力溪谷
 世田谷区教育委員会

等々力不動堂本尊は、新義真言宗の宗祖親教大師が山城国（京都府）よりこの地に移したとつたえられる。本尊は、新義真言宗の宗祖親教大師が山城国（京都府）よりこの地に移したとつたえられる。本尊は、新義真言宗の宗祖親教大師が山城国（京都府）よりこの地に移したとつたえられる。

東京都指定名勝

等々力溪谷

所在地 世田谷区等々力二丁目外
指定 平成十一年三月三日

等々力溪谷は、国分寺崖線（ハケ）の最南端に位置する約一キロメートルの都区内唯一の溪谷である。谷沢川が国分寺崖線に切れ込んで浸食したもので、台地と谷との標高差は約一〇メートルある。溪谷の斜面には、武蔵野の代表的な樹木であるケヤキをはじめ、シラカシ、コナラ、ヤマザクラ、イロハカエデなどとともに、常緑シダ類のような湿性植物が繁茂しており、溪谷内には至るところから湧水の出現が認められる。

等々力不動の滝右手の露頭では、武蔵野台地の基盤を形成する地層を観察することが出来る。地層は上から黒土層、立川ローム層、武蔵野ローム層、武蔵野礫層、東京層の順で、武蔵野ローム層の中には東京軽石層が白くベルト状に認められる。国分寺崖線の湧水である不動の滝は、武蔵野礫層と東京層との境から湧き出した地下水によるものである。稲荷不動右手の石段下には、この滝に打たれて行をすする修行僧が各地から訪れたと言われており、役行者ゆかりの霊場と伝えられている。

等々力溪谷は、東京都指定名勝「真安の池湧水群」（国分寺市西元町）とともに国分寺崖線名勝群を形成する一つであり、東京を代表する自然地理的名勝として、植生学、地質学及び地形学上重要である。

文化財を大切に

平成十一年九月

東京都教育委員会



五月大祭 大護摩供



本堂



本堂から振り返る





不動の滝へ向かう



不動の滝



右の説明板は稚児大師について記している



不動の滝についての説明板

不動の滝

利銀の滝 等々力の滝とも稱はれ、ま
等々力不動の滝は、今から八百数十年の昔
高野山と中興し、根来寺と開創して、両山の
産主となられた興教大師(覚授上人)の五十五
歳の三十一歳の役の行者の刻された不動尊の
告によい、この尊像を奉持して、漢香と道と
りと、幽谷靈氣に満ちた所に到った

見上げれば、おりの新産の中夜と、錫杖と成
つと、霊泉がほとばしり出て、滝を成
この龍の上に、奉持して、不動尊と安座
たのが、産の上の御本堂の等々力不動尊と
あり

四季に、枯れりことのなしいこの滝
お滝と呼ん、一心不乱に修行するは、
今も多し

等々力の地名は、一説に、龍の毒、
由来すわと言い、龍毒山、といふ山字、
ついで、他の一説は、満願寺の深沢、鬼ヶ
谷にあり、鬼ヶ谷城の満願寺、といひ、現在地等々
形転換し、とらき、満願寺と言ふ事、地名に
龍毒山
等々力不動尊
満願寺別院



等々力溪谷を歩く



矢沢川に沿っている



等々力溪谷 案内図

《凡例》

- ◻ : 出入り口
- : 見学の主な場所
- : バス停
- 🌳 : 地層観察地点
- 💧 : 湧水・湿地
- ♿ : 公共トイレ
- 🛍️ : 商店街
- ⋯⋯ : 等々力溪谷の入り口までのコース例



■ 等々力溪谷の植生
 等々力溪谷の斜面や料面上部の台地面は、ケヤキ・ムクノキ・ミズキ・イヌシデ・コナラなどの落葉広葉樹が多く、その中にシラカシ・アカガシ、アラカシなどの常緑広葉樹が混生しています。
 等々力不動尊・不動の滝の周辺の落葉広葉樹林は、極めて自然林に近いといわれています。
 このほか、アズマネザサ、ヘビシダ、ミズヒキなどの草本類や、湧水地に育つ多年草常緑草本のセキショウやムラサキケマン、シャガなどが見られます。
 このほか、野鳥が落とした種や、新たな輪樹などにより、シュロ、ヤツデ、アオキなどの植物が増えてきています。また、カシ類の樹が多く成長してきており、昔に比べ、溪谷内は日が射し込みにくい環境に変わってきています。



案内板作成：等々力溪谷保存会

ここを右に橋を渡ると等々力溪谷横穴古墳に至る



橋上から見る



都史跡 等々力溪谷3号横穴



7～8世紀にかけての横穴群という





都史跡 等々力溪谷 3号横穴

等々力溪谷の周辺では野毛大塚（玉川野毛町公園内）、御岳山、
狐塚などの古墳群が造られた後、古墳時代末から奈良時代（7～8
世紀）にかけて横穴群が造られるようになります。

等々力溪谷横穴群は野毛地域の有力な農民の墓で、これまでに3
基の横穴が調査され、現在は3号横穴が完全な形で残っています。

横穴は谷間の崖地に横に穴を掘って造られていて、玄室と羨道で
構成されています。泥岩の切石でふさがれた玄室の床には河原石が
敷かれ、3体の人骨とともに1対の耳環（イヤリング）と土器が副
葬されていました。その前面には斜面を切り通して造られた墓道が
延びています。ここには土器が供えられたり、火を焚いた跡があり、
墓前祭が行なわれたことがわかります。

1989年3月

世田谷区教育委員会



この先に等々力溪谷1号・2号横穴跡がある



等々力溪谷1号・2号横穴跡に立つ標柱





等々力溪谷1号横穴跡



等々力溪谷2号横穴跡



道路沿いにはこうした案内板があった



溪谷を上から見る





溪谷遊歩道入口 →

等々力溪谷公園案内板



等々力溪谷公園の由来

等々力溪谷公園は、旧武蔵野国分寺村の地蔵堂跡に、1963年に開設された。当時は、谷川が流れる谷間に、木々が茂り、涼しい環境が、市民に好評であった。その後、1970年代に、谷川が干涸び、環境が悪化した。1980年代に、谷川が復活し、公園は再び人気を博した。現在は、谷川が流れる谷間に、木々が茂り、涼しい環境が、市民に好評である。

注意事項

- 案内に注意してお歩きください。
- ごみは、持ち帰りましょう。

みなぎ場からお帰りの際は、お土産として「等々力公園」の記念品が、この案内板の裏面に、お土産としてお持ち帰りいただけます。

世田谷区 あなごのまちの郵便局

東京都が名勝に指定した証があった





インターネットより

参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/tokyo/23ku/todo.html>

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/tokyo/11_ebra/noge.html

<http://www.aswe.jp/shashi/histry/bibo/030309TODOROKI/>